昭和三年三月上浣起筆

李将隨筆

三

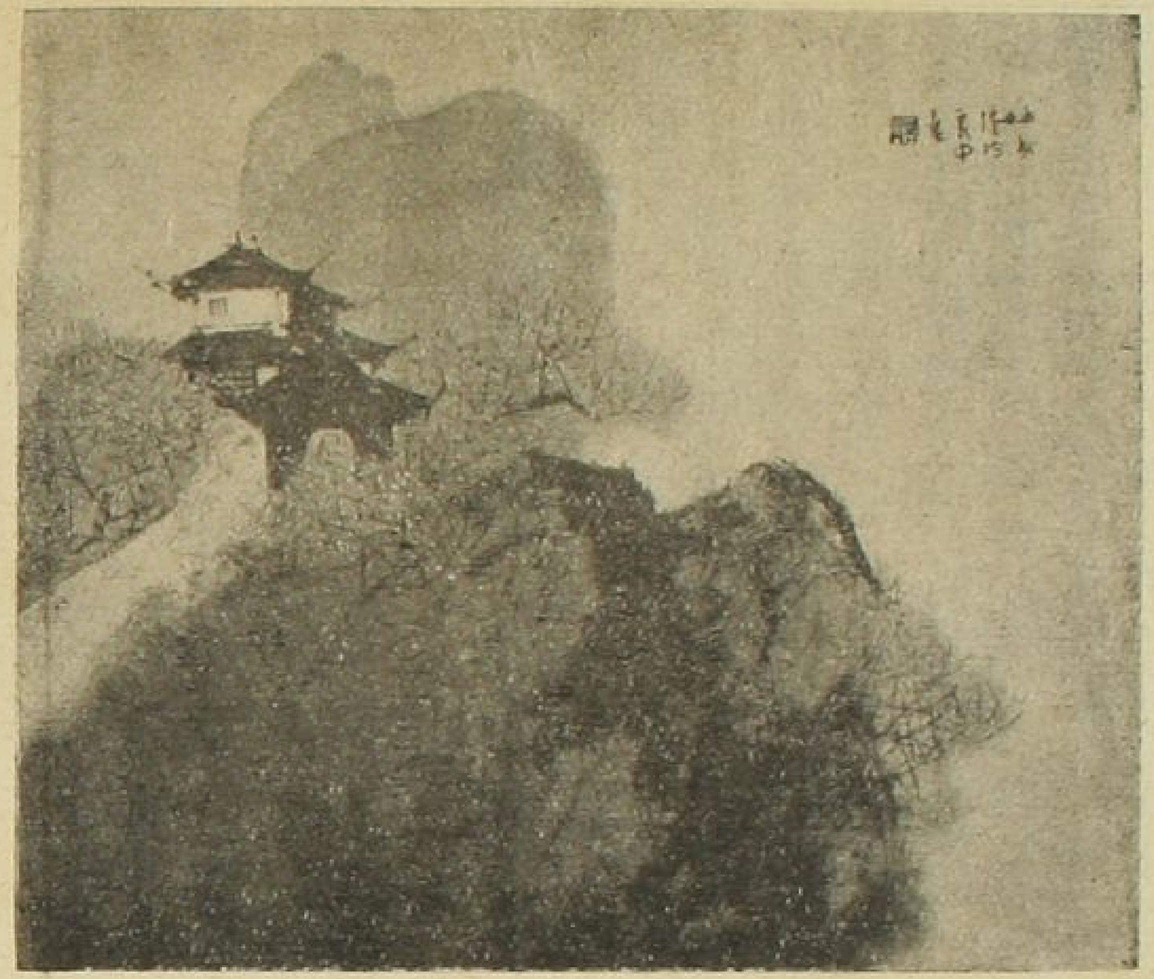
特別
イ4
1919
400

176665

春城随筆 三

昭和三年三月上浣起草

○既成政党が今次の普選に大得ひ壓倒的多数の票を得たることをきゝ戦績を誇りけるやまぬ負ちる房諸に婦部会あるべく別読会も安くなき 御承知ても叶はず残は不要なる、毎日日中殆んと手を束ねるのみ、科するものは二・七十分と演説を試むるのみ日課也、演説の為め喜びの都と枯終に演壇に立つも一語を発する能はず 登壇当時と代りて目礼を以てす、人気は始めより聴衆は却て同情を寄せ、繚乱



早春（尚美展）竹内栖鳳

春寒 小野竹喬

38- 9186

唱来為もの投票すべしと叫び大相撲蒼稀者
を自動車に送りつゝやく唱来して已ます此人
氣は終に無産側に属する工場方面の投票
誘ひ又倶楽部を去る誘ひ開票の結果は武藤山
流を剰るも無くしめたり。係し武藤の人選しなれ
客する者がおほたとつみを為べし、彼れは少数得点
者の内にも比較的多数を得たる也 武藤は遂廃
場にてなも此等二多数十萬の金を散し給ひ彼れ
初め思へらく多萬の金を投ぜば同志議員三十
数名も議場に送り得て是を率ゐて閣中に
椅子を占むるは掌を指すが如しと頼みたるも悲
逆に除外の少数すら得る能はず 今回は僅に

四名を得たるに過ぎず、何んと投票の価の高きや
彼の政友と雖も、是は空席を有る者二百余萬の金を投じ
成政党に執りても閣中の椅子を購ふの価たる
事最かさうし、而して武藤のウノボレも今となつて
漸やく夢さめて、今回は是れを自白し己れに降伏
したる様を語る。
然らば又選挙言論が善悪にどれ程の効果を生
むや甚だ今日の選挙に命ずる。演説会場で人気の
立つことがやかで投票には比例して現はるゝこと
であることが事実に於て徴し得られた。敬て余
が前の流弊に演説会場の人気不人気を度
外に置かず、是れを雄辯を為すの第一材料と

借りたことハ、ある手助を得つて幾多の採りを入
れて見ると。幾多の各候補の人気表のごとき
ものが掲示されてある。是ハ先から前人の体温
表のやうなものであつて、人気のある演説会
では線が高く地平線を抜いて書いてあつた
といふ成るほど市長選挙ではこんな個の材
料であらねばならぬと感じた。
○大阪で無産派に行くべき工場地帯の投票が
幾多に投ぜられたならば、何ごとであるまいかと
無産候補が無いのと、今日のまゝ具体化してみ
ないからであるが、将来無産派の勢力ハ決して
侮られぬ。今度の普選では直をくつて、政

十二行

友でも民政でも、全く無産を顧みなかつた。素人を
何れの演説にも無産を攻撃したものは無かつたやう
であるが、実ハ政友民政両党の無関心な所
からを得ぬ。両党の敵とすべきもの、実は此の無
産一派である。両党連合しても之れを攻撃せね
ばならぬのが、恐らく近き将来に於て両党
連合して之れに当ることが、実ハ尽きぬであ
らう。私らから政党といふ価値は全く無い
のである。今日ハ政友民政共に自家頭上の蠅
を取ることに忙がしく、他に及ぶの余地が無いので
あるけれども、実は情けない事である。無産派
ハ今日こそ少数であるけれども彼等は微塵

こゝに抗し強ひて覚悟を決つて起つた。よつて、宗
教も政党のつた国化をなすものであるから、其の
価値は至つて尊ぶべきものであることを
忘れてはならぬ。
○報知新聞紙が今夏二十日間にわたり浮世絵の
展覧会を開かんとして、十数の趣味家と諸識
者を歴訪したので自分も其の選に入り、あまた
前ステーション、ホテルで展会をとした時に、始めて
結城素明や平福百穂等と会した。あ二年
前田秋園の鏡山学校を訪れた折、百穂の先代
穂庵が書した大雅詩佛が紋付の羽織を着
た人の背に見かけて鏡山に登る半切の幅の

揚げてあつたことを端なく思ひ浮べて、其の事
を百穂に尋ねて見ると。百穂の語るには、自分の
父の其の間の時は詩佛の門人であつたので其の
父が特に又に頼んで書かせたそのである。詩佛が殁
した後であつたが、見ると詩佛の登山の詩を
書三行が楚しもする。尚ほ鏡山の図を穂
庵が作つたことも陳列してあつたが、見ると
乾ては穂庵晩節の業だと語つた。
○小品欄が出来て玩具小品を三ヵ月ばかり陳列して見
るとマンザラ無趣味でもない。散策の折街頭にあ
変つた玩具が目につくと買ひ添へるに気が起つて
此頃は玩具集めを廣しだ繼らを手を出

す。此次手に入れた一二を録すると、おへこや産の黄
色ものガラスの小器、花器でもあらうか盃大のもので
あるが、模様が凸起して居るが紺瑠璃のガラスである。
じやワ人形、これとや、大形だが、例の扁平の形式
で彩色がある丈、これは日本模造である。浅草の
武者尾から小菖蒲太刀と犬張子の上に笊
を冠せて其上に傘を載せた玩具を購ふた、これは
赤児の鼻のつまりを防ぐ護符と云ひなして
ゐる。服部耕石氏より寄せられた玩具の内にアイヌの
熊祭の時に用ひる花矢といふがあつた。これと棒
の先へ装置する其の尖頭である。三越呉服店
に絵馬類の陳列会ある時出品された折、絵馬の小
品が沢山に売つてゐるので、三四點購ひ得た。地口
行燈の小模型七枚を街頭に得た。或る日の散策
に獨乙製の多くの玩具を見た一種の風趣がある
ので小児の像を獲た。磁製である、赤香蘭社で有
さ七分ほどの口の開いた花瓶二個を得た、先年人
から寄せられた小花器も香蘭社製であるが、其と
は形式が変つてゐる。家児が當年もある處所から
年末多くの玩具を寄せて呉れたことを知
めて知つて、其の内から種々集まることを十種ほど
り選んで其を陳列中に添へた。前年棚の
陳列が無くなつたので進んで揃へんが更に一個
の陳列棚を拵らへたるのです。

三月十日記

○近著の書畫骨董雜誌に梨軒叟といふ
人の書畫談中、狩野芳崖の不動の火
焰についての談がおもしろく感ぜられ、筆
者の自白に依ると、窮し切つて捻り出したのだ
とあるが、實は窮せざれば工夫も起らぬことのある
ある性にあつて筆者もよく見えども感心した
いふものを第三者が見て感歎措かさることがある
寺崎廣業が描いた樹木を墨色淋漓とし
て書いたのを、樹の專門家三好學が見て、實に樹
木をよく研究したものであるけれど斯ふは眞を
寫し得ぬと褒めたが、本人に聞けば偶成であ
つて、よく出來たとは思つてゐるが樹木の整頓ハゐ

十二行

いと笑つたのはつまりよく

本朝繪畫の源泉は申す迄もなく空海河成等が信仰の對象として、諸佛の形像を畫きたるより巨勢宅麿等の畫派を產み、土佐春日となり明兆雪舟に至り終に狩野住吉の畫派に至りしものなれば、先始めに佛畫の事に付き一二の事を話さんに、明治の二十年頃より一時盛なりし歐米崇拜の熱も少しく冷却の方に向ひ、國粹保存の聲の高まりし頃、東洋の美術研究の爲め我國に渡來し居られたるフヘノロサ氏が、口を極めて日本繪畫を推賞せられたり。此の聲は當時歐米心醉者流の爲めには一大警鐘の響であり、又確かに清涼の覺醒劑であつた。當時これに呼應して繪畫富國論迄書きて建白をしたのは狩野芳厓氏であつて、フヘノロサ氏はこの芳厓氏を非常に推賞して居られた。彼の有名な仁王夜叉を摑むの圖に就て、上野の美術協會に於て、口を極めて賞讃され、金剛以後の名家にして意匠に至つては金剛以上だとまで褒夫された。其意匠と云ふのは仁王に火焰を背負はせしに、其火焰を紺靑で繪き末端を雌黄に丹砂を雜へて彩色されたのである。從來不動の火焰にても背中が炎へて居り火焰を背負つて居る樣にて、甚だ面白くなく感じて居た。かくありてこそ如何にも仁王の身體より火焰が發せし如くなりと、一時間餘に亘りて彼の畫を指摘して賞讃された事があつた。其後予が堀川利侗氏と同道して

出來るといふことがあるのだ

芳厓氏に面會せし時、このフヘノロサ氏の賞讃せられし事を同氏に話したりしに、氏は眉を顰めて實は左樣に賞讃されては恐縮千萬、彼の火焰の如きは窮餘の血路にて云はゞ過の功名とても云ふべきもにて、下圖に仁王に火焰を背負はしたら宜しからんと考へ、線書きして書き顯はせし時は如何にも新案なりと自分も喜び居りしが、いざ着色となりて殆んど困却せしは、不動は眞黑の身體故紅の火焰にても分界ありて宜しけれども、仁王の丹砂色の身體に紅の火焰にては分界がたゝず、さればとて仁王を黑く彩色する事も出來ず、殆んど困却して半日想を凝したが善き考もつかず、予はかく窮したる時は瞑目默座して邪念を去り、心に佛を念じて神心淸虛に達せし際豁然眼を開きて無意識の間に筆を執りて揮灑するを常とせり。此時も同樣に默禱眼を開くと同時に筆を執りて繪皿に突込みしに丹砂の皿を通りて、紺靑の皿に入りしかば其の儘に畫きし迄にて窮餘の出來事たりしに過ぎずと云はれしが、是が所謂斯道の聖者が感得とでも云ふべきものならんか。同氏の佛畫としては東京美術學校に藏する慈母觀音の如きは第一なりと云ふべし。然れども、畫家の畫きし佛畫は美術たるを失はざれども、尊崇の念を缺けるが爲めに手を合せて拜するの念を生ぜず。況んや人間の常識を以て佛畫を寫さんとするが如きはそも〳〵誤りなりと云ふべし。

から神と道するのである。
○楠瀬日年より銅器の吹殻入と云ふ基を贈らる、直
ちに吐と云ふ置き物とす、此品は普通の灰吹其
の如く見えるけれども一寸の工風あり、普通のは吐月
峯の作器を蓋と挿込みであるするきされど、
これは底の方は灰吹を拵へ置し中は銅で張ら
れてゐて火気のあるものを容れても、普通灰吹の
底が焦げ焼けて抜けることがあるが其憂
がない。

蓋ぬき

甚た 二枚の蓋もエマ手に出
色の螺鈿形を塗つてあるので
甚だ趣がある。どこかに置つて
ゐるところとしては、気が利いてゐる

とも見をもして見ると、日年の寿直が京都に注
文して特に作らせたものだといふ、白合はエマ手
のものがすきで、香合や菓子盆や菓子器を
蒐集されたとあるが、今は皆な散して或
許も存して居らぬ

三月十日記

○牡丹は支那の國花で、古くから支那文人は花の富
貴なるものと禮讃して居る。毛莨科の落葉灌
木であるが、其の花が木に不似合な大きい、蕊し堂々
たる樹幹に此花があるとなれば、知れ
立派であらうか。芭は種々あつて紫紅葉の濃色
なのは俗な臭しいものであるが、此花また俗気
が無い、そこに居ると「ダリヤ」の如きを到底較べ

こうまでなったのは、薔薇は俗氣を離れてゐるけれど、花の規模は狹い。色もあり刺のある野花おもむろくらゐの支那では牡丹を花王と呼んでゐるが、ためるも王者の態度で群芳を壓するの概がある。此植物が支那の特産で古來洛陽では此花を愛し種類も少からぬ。譯は、土質や氣候が此花に適してゐるのか、培養宜しきを得てあるのか、自分の知る所ではないが、日本では此の培養がうまく面倒をさせてみる。自分は中夏燕京と北京に遊んだから此花を見ることが出來なかつたが、紫禁城の宮廷奥深く行つた時、牡丹の花壇のあるのを認めた。壇の周邊は染付模樣の陶板を以つて築

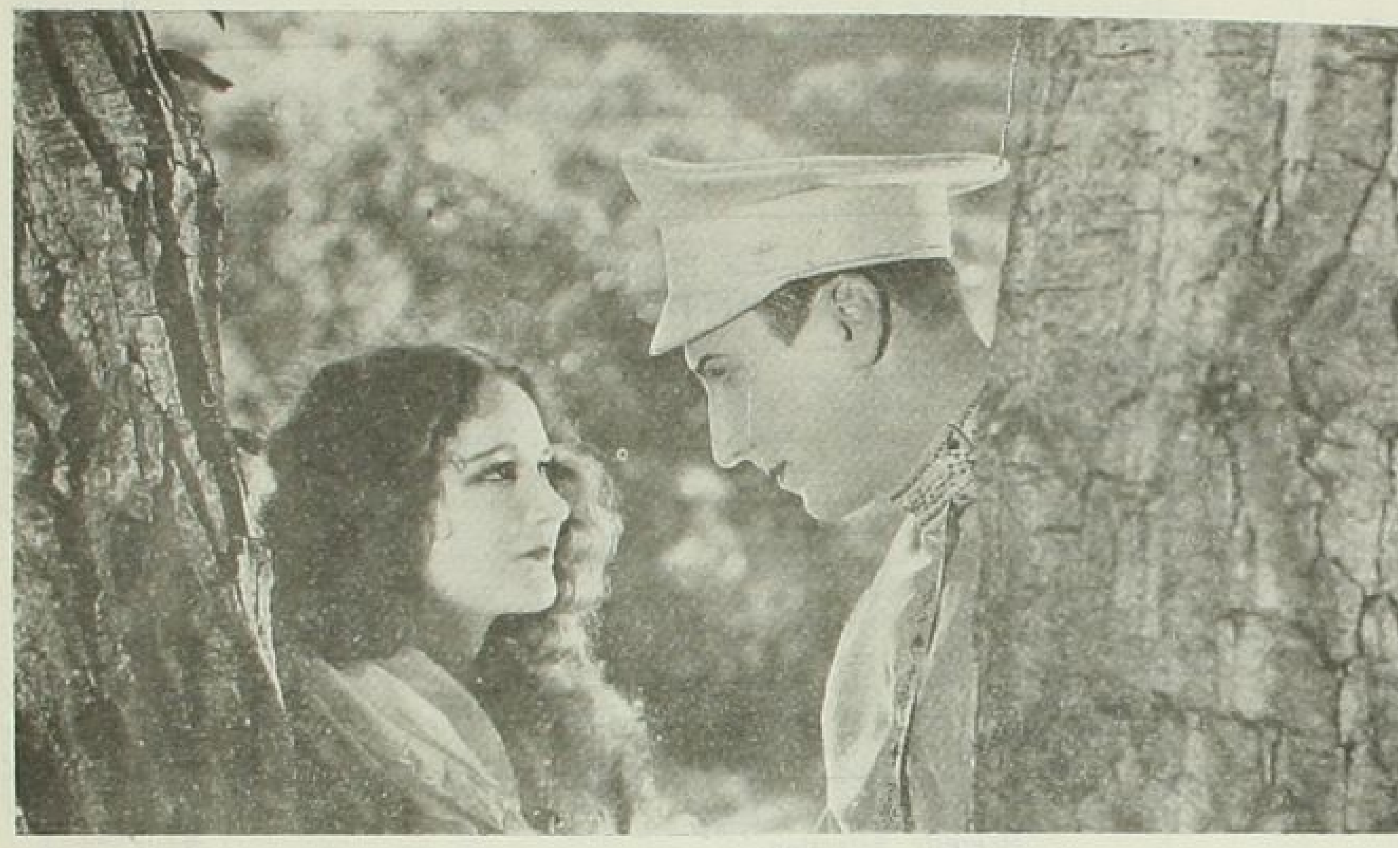
かれ流石に豪華のものであつた。宮廷の園には巨大の太湖石が散見されたが、それは何れも完璧のものばかりの九竅のある極めて雅致を帯びた物で、決してセメンとなどで接ぎ合はした粗悪な無いのばかりで美しく風致がある。牡丹をコンナ石に配したらどんなであらう、こんなに感じたことを今憶起すのである。日本でもよく牡丹に唐獅子といふ畫題で描かれてゐるが、蝶に從屬があつておもしろくないが、實は實景であり得ることでもある。多分花王に配する獸は獸王でなければならぬと、位と美の極致を併せて支那畫家達を日本でも徹つてゐるのであらう。支那では禁中すら矢鱈

は獅子の置物があつて、此の彫刻ま〻殊に[illegible]
て居る。日本でハ神社仏閣の飾りとされ、すべて獅
子の顔ハ怒気を帯びてゐるが、支那のハ柔和
さ出来てゐる。況に獅子が牡丹の飾りと云つて
ゐて、牡丹も後世に至つてとられ、此の画者を配
する意匠の起るのも亦自然であるとも云へ得
よう。富強のシンボルとしても好意匠と云ハ称べ
あるまい。

三月十日記

○此号新富武蔵屋脚色と見比読書ハ敢て出色
のものでもなくつた、唯ただ日本の補注まとめ
出を收めておく。

三月十日



原名 Surrender

ユニヴァーサル・ジュエル映畫

降伏　全十巻

アレキサンダー・ブロディー氏の原作より
エドワード・ジェー・モンテェン氏脚色
エドワード・スローマン氏監督作品

リー・リオン……………メリー・フイルビン孃
コンスタンチン…………イワン・モヂウヒン氏
ラピ・メンデル・リオン……ナイゲル・ド・ブルリエ氏
ジョシュア………………オトー・マシーソン氏
タラス……………………オトー・フリース氏

（略筋）コンスタンチン公爵はオースタリーのガリシア地方を旅行の際、小川の邊に美くしい乙女子リーを見いたく心動されたが其の儘通り過ぎた。數ケ月後、歐洲大戰の幕は切つて落され露軍はいち早く隣國ガリシアに攻め入つた。其處でコンスタンチンは再び彼女に廻り合つた。公爵は愛慕の余り父ラピ・リオンに娘を懇望した。戰禍を惧れた村人一同に、身を犠牲にして我等を救へと嘆願されリーはコンスタンチンの許に向つた。純眞無垢のリーを見て、コンスタンチンは、自ら愧ぢて彼女を赦した。其の時、オースタリー軍はなだれを打つて侵入して來た。リーはコンスタンチンの清廉なる男性美に、憎惡は變じて戀慕となり、身を以て公爵を救つた。リーは吾家に歸つた。父は一度許したが村人は前に懇願せるこさを忘れ反つてリーを裏切り者さ責めた。村人はリーを放逐し後より投石した爲父は庇つて投石の的となつて倒れた。村人は初めて冷静に戻した。今日父の墓人物を殺したさ言ふこさは、村人を初めて冷靜に戻した。日頃最も尊崇せる血醒い幾年かは過ぎて、世界に再び平和の春が訪れた。二人は永遠の幸福を祈に詣でたリーは其處にコンスタチンを見た。つて相抱いたのであつた。

説明　石野馬城　德川夢聲　伴奏曲目撰定　長谷川秋甫

○高橋是清の称意とせるは緑月の十六羅漢
小前年の贋立に評判がなるかつたので、親引をして
売られたのが、今日又贋立をするなり、此
の羅漢を重寶と献納に及んだ。贋物をそれにしても
を帝室へ納めさせるのおかしなことと思つたの此次
緑あ該の藩にて今しその様として、緑月を思
人びゝ滿州のそふする決してゐる西びの一つ面に荒
し緑月の○月の○コピーとせられのでありば蜂子珠
重ゝ値するもが、惜しいことは二枚の緑月の
落款がある、そこで贋作の識りが起るといふのだ。
緑月の畫は宋の東坡がどこからか校あし出して
才子曲これを青びの節を寄せたことといふ集まる載

原名 Wolf's clothing

ワーナー・ブラザース社映畫

紐育狂想曲

全八巻

アーサー・ソマース・ローチ氏原作
ダリル・フランシス・ゼーナック氏脚色
ロイ・デル・ルース氏監督

バリー・ベーリン……モント・ブルー氏
ルース・ハンスフリー……パッシー・ルス・ミラー嬢
ジョンスン・クレイザ……ジョン・ミルジャン氏
ハーバート・グランディッシュ……ダグラス・ジェラード氏
醉拂ひ……リー・モーラン氏

（略筋）時は一九二六年十二月三十一日、大晦の夜所は紐育。西部の小さな町から都會に憧れて出て來た青年バリー・ベーリン地下鐵道の車掌君として寸暇もなく地下に働くこと三年、未だブロードウエイの華かな生活に觸れる機會にも惠れなかつた。所が多年の望みが叶つて當夜一晩の休暇を貰つた彼はいそいそと樣々な空想に耽りながら歩いてゐると忽ち自動車に刎ねとばされて失神して仕舞つた。氣が付いて見ると彼は紐育一流のモルガナ・ホテルの一室に人々の手厚い看護を受けて居る。然も人々は彼を「クレイザさん」と呼んで下へも置かぬ取扱ひ振り、見れば見窄らしい車掌服は何處へやら、かれ〳〵憧れて居た夜會服に變つて居る。財布には紙幣束がギッシリと入つて居る。總べてが夢心地である。しかし、かれがれの空中樓閣が實現されたのである。彼はどうせまゝよと云ふ氣になつて、クレイザなる人物になりすましホテルの舞踏會に出て見ると、そこで又ルースと呼ぶ素敵もない金髪美人との知り合ひになり魂を天外に飛ばしてしまふ。クレイザとは一體何者？それはボストンの狂人病院から逃げ出した患者の名で、追手に捕はれるのが嫌さに、バリーが倒れて居る間に、服を取り換へて換玉にして逃げて仕舞つたのであつた。さてもバリーの空中樓閣はいつまで續く……………。

說明　丸山章治　山野一郎　伴奏曲目選定　貫洞喜代治

つてゐる、唐と宋とハ甚だひどく隔絶した時代でもあつたのに、当時既に稀覯のものであつた、日本すら正倉院(?)と認めてゐるものが二通あると云ふがそれが果して真跡であらうか、模写でも時代が古るく精写であれハ珍重するに足るのである、呉道子すらも実物を滅多に見ない、よい模本を珍とするのだ。画構の注目も無意識欽するだと惜しまれて。

二月十日記

◎陳列棚に赤荒干(?)の者を焼いた陶製のビリケン紐育製で日本に始めて輸入された折幸福の神とあるので之迄の商中婦女を競うて買ひ求めたのが現在出たから之を焼くた。◎箱根(?)寺尾元彦が洋行の時に土産として露西

十二行

亜から齎らした緑宝マーガル（原名ニ忘れた）で指輪などを入れる函、此の石ハ露国の宮殿で用ゐるものと同時代であると云ふ。外にナイヤガラのレーン、フォールで拾つてゐる木葉の切手の類、獨乙のゲーテーの卿里で作つた花瓶、蓋の表面に粗末な彩画がある。作品(?)は賢を細刻した鈕のある葦印支那製で無彫であるものを印材とした珍品である。英国製の呼鈴黄銅で作られ周辺に多くの人物が刻されてゐる。木彫のタルキー外国製であるが用途は分明しない。薬師寺の古材を以つて製した小運(?)基台で格聴雨の談話がある。錫杖頭ある精製のもので佛像で附属したものであらうが珍品である。唐の年号ある

土佛、明器小品鬼、秀歌小品黄銅観音像六朝佛
小品三種是等ハ皆目録ニ収めもあれども茶業の序ニ
注して置く
尚小品中珍奇且つ和中の價格あるものを採まんに左
の如し
御物かいがら蒔絵を模したる香合
左近の桜枝を以て作りたる杯
木彫閻魔像
大時代軍神像
スポルカント彫刻銅鐸　十
瑞西木彫人形　三
日古銅銀象眼虎一対

支那製木彫人物并草花彫盤
紅玉楼彫
銀銭
金印
羅馬カンテラ　模
銀壺　憲法発布紀念　御賜
銀椀　李王家紀念物
銀巻香帙
扇形銀器
銀器　御大礼紀念
日
三人官女　時代雛

竹根布袋
円形厨子入小品佛像
鎧袖毘盧厨子入佛像
連環銀章
豆本法華経 八巻
経机 カナメ屋製
雛本源氏物語
同小謡百番
豆本各國家書
書畫帖
豆本経巻
小硯

硯形墨
豆本洋書数巻
銀縁マホガニー烟草箱
古銅牧牛（背牧童）書鎮
銀製カップ 三
大隈侯肖像入金牌
豆本沙翁全集
蘭溪粉本横巻
木彫騎馬（牧牛）四置物
銀製記念メタル数種
角彫トーテンポール
角彫マレー鳥

洋製紙切 数種

犬張子 一双

貝桶 小品

對泥

佛国製鳥の形入

大戦中蒐め獨乙の紙幣

木彫古活字

銀製スプーン 三

白磁スワン 二

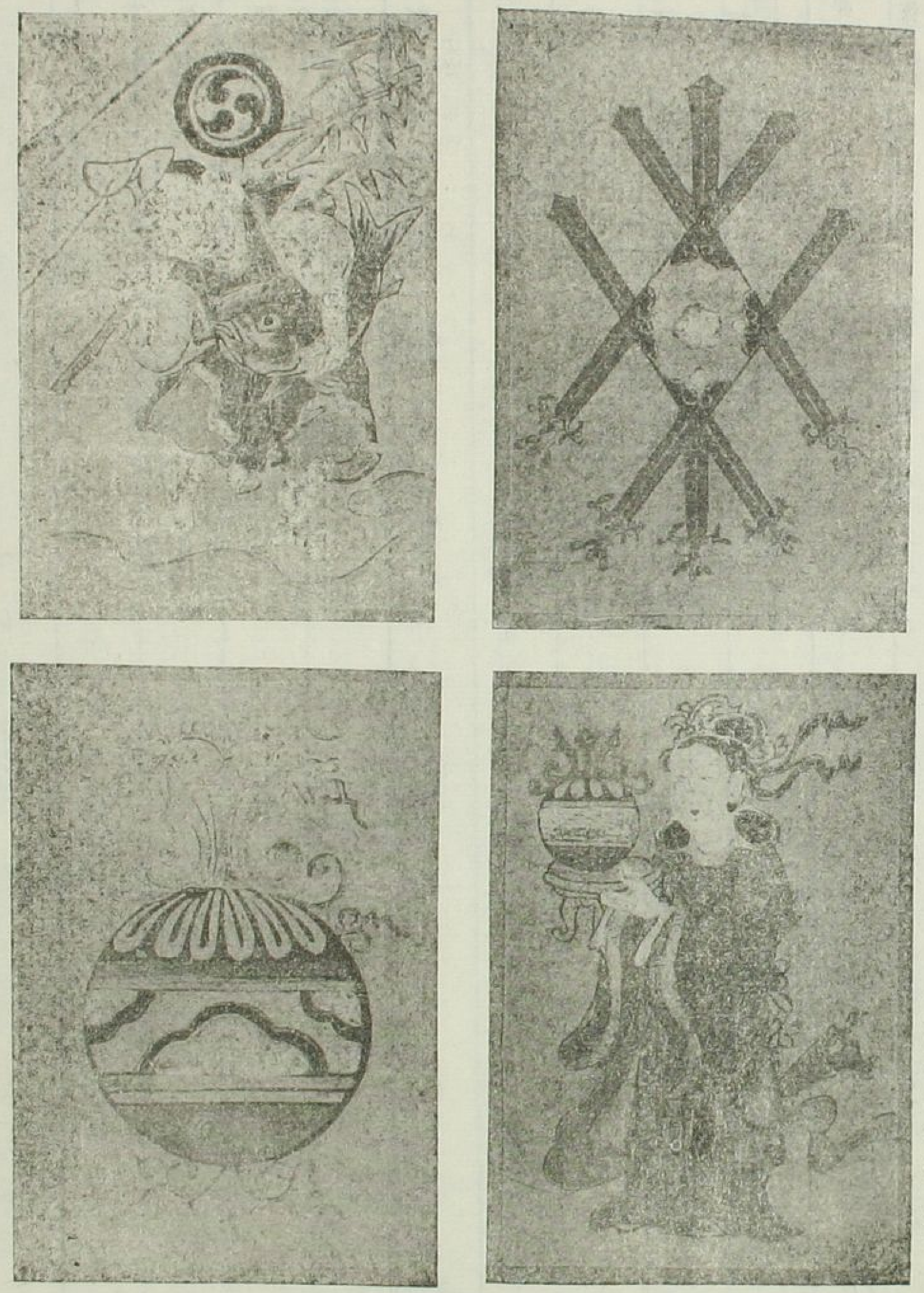
乾漆魚 二

阿蘭陀キリコ薬入

マイブドツ平卓 カラヽとの

銀製花瓶

婦人對鏡像 曉斎作 明鏡



うんすんかるた

京都 小山曉杜氏藏

我書を保野さんに山陽書遺杜鵑行帳、他の余か
随筆山陽画賛の斯、蒼鎖に収めんとこゝろ宿
をいをとゝめおく
○近刊の集古し挿絵ようんすんかるたの図を収む
ある時代まで行りたる外国かんたの一つである。恵
此頃の日本風に書かれあるは注意すべし
三月十二日記

○日本の新聞や出版物が新聞紙に大広告をのす
ことが習慣となつてきたが、ますます増加し、大量
出版をなすものも新聞紙の一頁を填めること
も甚しいことをやる、それは頗る悪習慣であるが
なるべく倣ハないやうに、競争で頁付をするやうすへて
でが鋪らるゝも多く、実ハ馬鹿げたことで世界ぢうに
こんな例ハなかつた、自分ハ早くから広告編
の論者である。此頃大阪の朝日毎日東京の新
聞と日々が活字を縮めて段数を多く
した結果ニ広告費の増収を図る計画ハ面
白い事なることゝして実行しるゝが、出版
業を経営する者ハ可なり大きな負擔でもある。新聞

新聞紙と約束して一頁ぬきの広告出した人がこんな
為めに若干の数が殖えて一割以上の價を値上
げ掲ハ何んともならぬことをする者のお蔭で揚を接続
社聯盟会てハ先が動き、不揭を標榜して四社
に新聞社中の四人として出版業者と加盟を促してみる
実ハ四新聞社が協調すれハ他の新聞社の、其ひ
とめすれハんとする便宜も見えて居るの新聞旅諭
社中やつきろつて、広告不掲四社を業とし生
没業者にも加盟を促してみるが、果して不
掲といふことが、まじと行われるかあやうかゝ東
京の経験ある朝日と日々の二社ま代ハ々どき始
の多くの新聞もあるみな大阪の二社を見つ

ては関西を風靡してゐるから、これで不猶と云へば自殺
に近いことになる。去りとて天下の大道にあるのに其の
道を踏まずに小径に依ることが出来るかどうか、恐らく
二十年も続かずに潰れることとき失態を生ずるで
あらう。実際のところ斯る聯盟には斯る保守
雑誌は、自分は印刷業の聯盟を果して経済的
るが、其の際は製紙社は立て日露戦争中にあっても斯る
此点と印刷であることを遺憾とし、自分は製紙同
盟と四社と対抗が出来るのであらうと思ふ。
組合としても策もしあれば、不猶同盟といふものを
広告の編輯同盟といふ者を提する。四日新聞
云ふ如きやうな出版界をも大いに広告をすること

は不経済極まる悪習である。すべての出版業者
が或る制限を置き協約するとなれば、何の苦もなくして
あるから、広告が編輯して同効か表はれないが無い
若しあるとこれが為めに広告費を減し、其の結
果として書物の価を減し、其の結果多くの
購読者を獲られる事になって利益があっても
としてこれと新聞社が打撃を受けること
となるのであるから、実はこれを日本の模様として
のであるが、恐らくこれはやまず行はれま
い。若し出版者がそれを行はれなければ出版業は成り
立たないことになるから、コンナ偏気に広告の悪
習を廃する端緒としたいと思ふ。早稲田の出版部が

政党と謂ふものはないのである、政友と議会政治と
趣を異にしても要するに広義的政友党的の党略に由て
運ひもするから政治的政党に入るのは結局得策であるが
い実は広き論的を條件として出版業者の
田党を脱することが必要であると信ずる（三月十
三日）

の普選に伴ふ郵便物の発達は驚くべきものがある
逓信省の収入は少からず増加すると大体に於て得る様だが
気を配る人の給仕や其他年賀がかかると、一時に
多数の郵便物がどかりと出た時に備へる為め臨時増員して準
備をあらかじめしておかなければならぬ。気の毒な事であると
アテが外れた損をすることもあるから、逓信全体の損

本縣の選擧郵便 東北七縣で第一位

遞信局は只で働いた上に 差引四萬餘圓の損

過般の普選實施後第一回の選擧に際し東北管内七縣において選擧の郵便がどの位差出されたか仙臺遞信局の概算によれば有料無料取まぜ最も多いのは有權者數四十二萬、選擧區四、議員定數十五名といふ

新潟縣 で三百九十四萬余通の多きに達してゐるこの割合で行けば第二位は有權者約三十萬選擧區三定員十一名の福島縣であるべきだが却つて第四位の二百九萬通に過ぎなかつた是は郵便の協定などもあり選擧區全部に郵便を出す必要がなかつた關係もあり都會地が多く言論戰に力を注いだ爲が有利であつたといふ關係もある、

第二位 は山形縣の二百八十三萬余通第三位は宮城縣の二百五十五萬余通で他の三縣は百二十萬前後合計一千五百十一萬余通であつたその内實際政府の收入となつた有料郵便は何位かといふに無料の約九百萬通よりズツと少なく六百二十二萬余通その内最も多いのは料金の最も安い葉書で切手貼付（官製葉書が大部分）二百七十余萬通切手別納（料金同様）二十三萬余通市内特別は一錢五厘外は二錢表中其他とあるは全部切手貼付のもの）

第三種 郵便（新聞紙類で料金は五厘市内特別は一通もなかつたが料金四厘）有封書狀（市内特別一錢五厘外三錢）第四種（ポスター類市内特別六厘外二錢）等の順序でこれ等の總收入は十萬二千二百余圓に過ぎなかつた仙臺遞信局では選擧通信の取扱費として豫算二十萬圓程を計上したが案外取扱數は少なかつたが併し何時何處にドツサリ持込まれるか判らんので全然手配を緩める譯にも行かず十五萬圓程使はせられ差引四萬八千圓程の欠損となつたが

此郵便 收入の外に電報收入（特定三等局以上の分だけ一萬八千圓）や電話收入もあるがそれでも二三萬圓は損した事になつてゐる特別會計でないから損えも痛痒には感じないがしかし考へて見ると八百七十萬通もたゞの郵便を取扱はされてその上欠損とは埋まらない話であるこれは文書戰は無料郵便だけで切上げた人が多い上に選擧費制限といふ命取りの制限があつて候補者はさらに明らさまに

現れる 郵便料金を節約しなければならなかつた關係でこの制限からどんなに脅かされたかは有料郵便六百二十二萬通の三分の二以上をしめる四百八十七萬通までは第三者の推薦状であつた事でも明かである

種別	區分	有料郵便取扱數（通）	同上料金（圓）
有封	市内	八、七〇〇	一三〇
	切手	一二、五〇〇	三七五
	其他	一九一、〇〇〇	五、七三〇
無封	市内	七二一、三〇〇	一〇、六八九
	切手	八八〇、四〇〇	一七、六〇八
	其他	九九九、二〇〇	一九、九八四
葉書	市内	三〇、九〇〇	四六三
	切手	二三四、九〇〇	三、五二三
	其他	三、七四一、一〇〇	四一、一二六
第三種	市内	—	—
	切手	二五三、三〇〇	一、二五七
	其他	二三四、四〇〇	六三三
第四種	市内	一、一〇〇	六
	切手	一五、一〇〇	三〇二
	其他	二三、八〇〇	四七六
計		六、三三六、七〇〇	一〇三、二六〇

得ハ未だ料知し得ない。今朝職後の談ありの欲する
所ハ花の切抜の如くで、近行向ハ四萬円以上の損失を
受けたとある。一艇する（造）きこえハけたるも参考に資
するに足る

三月十四日記

○余が家の玄関前なる松を中心として、あまねく多くの
餘地がある。大震火災の時ハ近隣のものが、ここに集つた
避難所としたのである。今度の新築ハ前と模様
を変したので一層家前に巨きな餘地を現出した。
[illegible]のものが体で、掃除に花壇を三
ケ所ほど作らせることとした。娘が園藝に趣味があ
り、多くの鉢が散乱してゐるのを仕末するためと、花
壇を築くの材料がないからであつて、是れや杭の

十二行

やうなものを片付ける一法でもあるのだ。我が植木職
も労した。何し合土質がよくないから、肥料を要
するは勿論だが、差あたり畑地に山積の樹木の枝葉
を肥料とし、土を深く掘つて其処に埋めることに
して、左うくば仕事に困る塵埃もこゝへの一掃
することを得た。恐らく植木物の出来栄は土
の肥料と配合するところで、よくあるところはけれども家
の前に花園のあるのも一風流で、或る気分の所でも
目を悦ばしむるであらう

三月十四日記

○前年為道氏といふを列挙して各方の解説
を附し一冊成つたことがある。是をか、其の後
葉を収めんとして見たが不完全

洞窟
採音の
寄席
見世物

極まるので此頃ハ日々書き直してゐる、湊合し
た一類を為すべきものも多くのものを合はせると
数が減るから新がれを要し、新たなる多くとの
が十数ある。其ハ土木、寺社、冒険、電氣、飲
料、菓子、茶葉（胃藥）、淋病薬、賣花、時
計を始、写真、代用物、出版、珠音などである。
はしがきも二百近く書き直し、漸やく可を覚
へるやうになつた。単なる列挙するだけならば容
易のことでもあるが、各説明に多少の趣味を
含めることとなると中々と骨が折れ
ます。書直しを要するもの七八項ある。
すべてハ実験のある譯でもないから、適を

振り回すことハ到底出来難い。　三月十五
日記
○早稲田大学出身の議員ハ総選挙毎に増加して来る
今次の普選に當選したもの早稲田大学の調査
によると左記のことく七十名となつてゐる。早大
出身者でハないが、数職員のうち三名當選し
てゐる。昔あつて教師であつたものを合はすれば
尚十名位もあるであらうが、それハ全部除いて
ある。七十名の内ハ政界政友会のものもある
が、政会ある継承大勢力であることハ言ふ迄
もない

○銀行業と稍と類似の金融機関ハ信託会社である。銀行と大のパニックが起つたから、信託会社ニ信頼する風が起つて来た。預金ハ往々銀行の破産の為めに元も泡に帰しする危険があるのみか、負債ある人ハ債権者ニ差押へられる危険もある。信託●ハ預けた財産ハ会社の財産とならないのであるから差押が出来ない。利子ハ普通銀行のそれニ比すれハ多い。そして銀行

○会社ハ預り物を会社の財産とせすけれとも、自家の固定財産のやうに勝手に取扱ふことが出来ない。●信託財産ハ損失が起れハ会社ハ固定財産で補充せなければならん。併し

衆議院議員當選校友及大學關係者一覽（七〇名）

今般行はれた衆議院議員總選擧に於て、芽出度く當選の榮冠を荷ひ得たる校友並に學園關係者は次の諸氏である。本會は玆に校友一同を代表して深く心からお喜び申上げる次第である。

東京府（六）
小瀧　辰雄君（5英法）
安部　磯雄君（教）
安藤　正純君（4推）
佐藤　正君（四二大文）
三木　武吉君（三七邦法）
瀨川　光行君（一九邦政）

神奈川縣（一）
三宅　磐君（三二英政）

埼玉縣（一）
遠藤　柳作君（15推）

千葉縣（一）
鵜澤　宇八君（四〇推）

群馬縣（三）
高津仲次郎君（二七推）
木檜三四郎君（二六邦政）
淸水留三郎君（三五邦法）

栃木縣（一）
神田　正雄君（三四邦政）

福島縣（二）
粟山　博君（四五大政）
比佐　昌平君（四一大政）

宮城縣（一）
内ケ崎作三郎君（教）

山形縣（二）
佐藤　啓君（三三邦行）
淸水德太郎君（5推）

秋田縣（一）
町田　忠治君（評議員）

北海道（一）
坂東幸太郎君（四四大政）

長野縣（三）
上條　信君（四四推）
山本　愼平君（三四邦政）
降旗元太郎君（一八邦政）

新潟縣（五）
石塚　三郎君（三九推）
飯塚　知信君（7大政）
增田　義一君（二六邦政）
安倍邦太郎君（三九大政）
佐藤　與一君（四二推）

富山縣（二）
松村　謙三君（三九大政）
寺島　權藏君（2大政）

石川縣（二）
永井柳太郎君（三八大政）
櫻井兵五郎君（四四專政）

靜岡縣（二）
永田善三郎君（四一專政）
庄司　良朗君（四一英語）

愛知縣（二）
小山　松壽君（二八邦法）
推尾　辯匡君（教）

岐阜縣（二）
山田　道兒君（四〇大政）
西田　鉄吉君（二一邦政）

三重縣（一）
岸本　康通君（三八推）

滋賀縣（三）
淸水　銀藏君（三五英政）
富田　八郎君（三九推）
堤　康次郎君（2大政）

京都府（一）
水島彥一郎君（三九大政）

大阪府（三）
田中　萬逸君（5推）
武内　作平君（三二推）
紫安新九郎君（三三邦政）

和歌山縣（三）
田淵　豐吉君（四一大政）
小山　谷藏君（三一英政）
木本主一郎君（二八邦政）

兵庫縣（三）
土井　權大君（三六英政）
山邑太三郎君（10推）
齊藤　隆夫君（二七邦行）

岡山縣（一）
西村丹次郎君（二三邦政）

廣島縣（三）
藤田　若水君（三一邦行）
山道　襄一君（三九大政）
森保　祐昌君（三八專法）

山口縣（一）
澤本　與一君（三一邦政）

鳥取縣（二）
矢野　晉也君（四三專政）
三好榮次郎君（三九專政）

島根縣（一）
木村小左衞門君（13推）

福岡縣（四）
大内　暢三君（二五專英）
中野　正剛君（四二大政）
坂井　大輔君（2專政）
宮川　一貫君（四四大政）

佐賀縣（一）
田中　亮一君（4大政）

長崎縣（三）
西岡竹次郎君（5專法）
牧山　耕藏君（三九大政）
森　肇君（三四邦政）

熊本縣（一）
中野　猛雄君（四〇大政）

沖繩縣（一）
竹下　文隆君（6專法）

第一、信託財産と固有財産を別々に整理する規定　（信託法第二十八條）
第二、信託會社の債權者は信託財産に手を觸れることの出來ない事　（信託法第十六條）
第三、委託者の債權者は信託財産に對し權利を主張すること能はざること　（信託法第十六條）
第四、信託會社は委託者の註文通りに信託財産を管理する義務ありて自分の利益のために其財産を自由に取扱ふことの出來ないこと　（信託法第二十二條）
第五、固有財産を以て信託財産の損失を塡補すること　（信託法第二十七條）
第六、受益者は供託國債に對して優先權あること　（信託業法第八條）
第七、信託財産に屬する債權と信託財産に屬せざる債權と相殺することが出來ないこと　（信託法第十七條）

有力なる會社なりければ、いくら法律上の規定が
ありても、信頼し得ざることは言ふまでもなし。
三菱三井住友安田等の信託會社〇にして始めて
も信頼するに足るものである。　三月十七日記
〇美術倶楽部に於ける大澤家の書画売立除
別人名を入る、琳派のもの大變多く、狩野派も若

干あり、殊に乾山の作は高目を付けしめたる、大
澤家の蔵玉杯行田の木像阿彌陀像一
前まで浅草のかや町に別荘を有し、百花園
の離れあるは別荘地に花卉を多く植栽せし
が故なるべし、此家に琳派の名品の特に多き（こと）
は、前代に抱一と特に別懇の人あり、抱一は常
に此の別荘に出入し、いづれも依頼に応じて
揮毫もし、乾山光琳の名品あれば勧めて
買はしめたりとか、今抱一は自家の手もと
と此の家に買はしめたるの、流石に鑑識あ
る人が参謀したる甲斐ありて逸品甚だ多
かりし、抱一と親善なりし大澤家の主人をあ

ましく書畫道楽にて多くの金を費するのみか、手
際を手に入れればものは父（ことに）勘当を受けし
こともありとか、琳派画集に収めらるる蒔苗
ハ多く北家のものにて画のみに花山の蒐集したる
陶器の類も少からず出陳せられたり、雪舟、烱
のごときものもあり、探幽、芳信なども多く、抱一の
装青あるを得つて見るはめづらし、抱一が遺墨
に北家に出入せしかば、あるいは抱一自身の筆
に成るものにて、多くは多く、皆書きおろし
つて焼気もあると、徹底もあるまじ、無款の稀少
なりとは、北家の好みの料に、叢を押しひろげたるもの
く珍らしきものにて也、一條の端や扉風なども七十七種

めなり也、尚北家すべて鑑ある路名なかりしは何なるが大
雲笑と焼あるし、行田の本邸にあらしものゝ内
南畫類を除いて貴重なるとかいふ、八ツの大原
の主人は南畫趣味あり、北部分のことある者
惜しみ、玉堂をとなるらし、崋山なども行
田附近にて遊びしことありとも、北家なる崋山
のものあるか否かすといふ、北貴主と執て
めるものしれる目録は其前の主流のものなる
が、貴上け總室は約五十萬円といふ（三月
十七日記）
植花山の書画にきて初頭を得ず、こんなもの一特徴
款を大きく入れたるが一特徴、光琳の漫画に

比し此人霸氣多く併し書も和歌も得意と
見へたれ、画中の書あらずもがなと思ハせぬ
こ能を見る。和歌を録したる短冊も七八枚あり
たり、破墨の山水も其の鏡を盡したり
光琳の寒山と副へて抱一が作りたる扶得巻を
展べて見るの図光琳と比して遜色を見ずの個
の一對也。光琳破墨の山水横物甚だよ
し
抱一ハ龍書大澤家と親善なりし関係から
物に書を用ひたりと覚しく、逸品少からず
武花呉寄横物、酒井家の面影梅の屏
風皆見るべし

其角の書字俳句二幅逸品なり外に 白畫像
書かれたるも珍とすべし。抱一の俳諧短冊
もあまた大澤に秘めて置かしめたるが、甘大
家を揮って抱一の織絵一枚を添へたり
雪舟中観音左右山水畫の幅逸品併
して元信の牡丹美女の幅を合して五点とす
探幽に花鳥のあるす、慈中継唐左右
芭蕉翁の三幅對めを覚へたり、全く中杜子
美左右王位に六曲龍岸の
屏風最も其の手腕を見る。
乾山の陶器中應康の秀なるは数種あり
鈴 梅同茶碗 並鳥絵風呂形鉢もあり

覚ゆ
従数ある五千歌弐人と数を覚へさるハ此の陳
列せ

○酒井と崋山の板本と隠見遺墨とを出
複製ほ大として余は宣伝用の序文を
書けと梢澈帝に正親町の両人に頼まれた
後者の自序一章あるものを書いて見たがどう
もまづ二氏が足らないから、更らに推敲を
要する。乃ち初稿は左の如し

三月十八日

不忠不孝酒井の墓と渡辺崋山が屠腹
の前に於ける書いたことが殺後石に刻されたが、
実は崋山は忠孝両義の信仰者である。渡辺は人
格の高い人であるから、周囲不忠不孝と自ら
を称した儒を嫌ったのだ。酒井は蕭房に伝く忠節
や時勢に関しまく目覚めたことを云ひ合ふ更
ふまあもあったのだ。此等の事は酒井が崋山の足るす
としてもちく伝へるべきは藝術の結晶である。田町渡
ハ書に於て全くの天才であった画の人
所以なまは藝術すなるの今日渡辺の心を
の且眼あ鑑賞する熱衷の盛んなるハ

汚しも俗ひもない。唯天寿を保たれず早く筆
を投じた為めに其の作品が頗る少く残して居
らぬ。然し房勝を不朽として一目前流が一
時其の書画を軽んじ甚しきは毀棄すること迄
があつた為めにいくら数が亡失したことであるまい
あらう。随つて其の数間に墨の重んぜら
るゝも聞こえず道理である。倖なる所は擅んで
筆んだ房勝の子孫が当時の法として家に残
した多くの画をひとたび取去られたと云はれてゐる。
此様のことの為めにも失せたことも少くあるまい。
但し此作品でも残つたことがなれば。若干の粉本や手
控等であるが、それも数供して先年の震火

に罹つたこともある。幸に渡辺家の画帖に六
冊の随見随録ともいふべき(き)ものが存して、世写
びの転り之を知ることの出来るのは其の随録の中をまた
純然たる粉本ともいふべきものと四冊他の四冊
は絵は今文二合といふ手控のやうなもので写
目のものを例の如く速筆で写して四すべて彩
色をも施してある。此等は壁上に掲げる画
幅と比べて却つて深い意味がある。画
幅を見ると彼れが非凡の画才を有してゐた
ことは知られるが、彼れが如何なる画を好
味を有つたか、世間に伝へてゐる各流の画を
見てどれを同じく感じたか、自分の筆に

すなわち、それだけが得意であつたか、畫幅をたゞ
これ丈では見ることは推測も出来ないが、此の隠
元隠居の〇は明かにこれを語つてゐる。彼れは
流石に他の多くの畫を写してゐる。光琳でも
抱一でも探幽でも雪舟でも宋の夏珪流の写
人の如くは実に良く写してゐる。のみならず、
自己の重なるものを多く描へてゐる。其自
己の内で今失せられたものも少なく無いらしいが、筆
者の心境の程度は之れでも知れるのみである。丁度宮本
武蔵も氏は幕府の宮本武蔵と存してゐると
一般である。畫と仕事と文字と畫を読合するよ
もあるけれども、おりしの識見を極し得ない。

もあつて、筆者の經歴の資料となるものが
少くない。且この意味に於て此の教育の隠元
隠居は一幅の画図にも過ぎぬ深い趣味が
ある。[illegible]と云ふのは決して溢美の吹聴で
ない。

〇廿日　彼岸入りの好晴。都下怜な日曜である。午後
娘を伴ふて散策。武蔵屋敷の肖畫を観人を探ね
れて入る。此日観たもの〻内、剣俠時代が頗る興味を惹
いた。その他は佛の文豪ラファエル・サバチニの書いたブル
ボン朝の事物語を活動式に手を入れたものである。頗
情緒に変化が多く。近来の傑作と評判を博したもの

である。ルイ十三世の時代の貴族の風をあらはすのが眼目となつてゐるだけに服装にも苦心をあつめてあらう、大体恋愛が本筋となつてゐるが其間に頗る殺伐の事があり、絢爛見惚れるやうな絵巻が展開される。と思へば、忽ち恋の競争や決闘があり、バルドレーなる美貌の色好みの伯と恋愛の睹をやつたのを国王が禁じたのを、バルドレーがそれに従ふ能はず、巴里を脱して守備兵と戦ふの冒険、恋の的となつてゐる婦人の危機に忍び入り、それに救はるゝロマンス。相手の伯に謀られてバルドレーが終に捕へられて裁判所に出て伯と争ふ場面断頭台に立たされて、終に又そこを脱しての大活動

は観客をして手に汗を握らしむる。バルドレー侯は美男子としても名が高く併せて武勇を以つても轟いてゐる、之れが主人公であるから、お話らしい要件が具備して女子を惹きつけるのが男子から見れば惹きつけられる。それに此の映画の趣向がある群衆の中に、国王の幽霊が突進して怪我をさせようとする。その国王に供奉する人々がブルボン王朝の行装をしてゐる。これ等の人数は数千名もあるい。バルドレーが刑場を脱する時そこを取巻く多数の衛兵が長鎗を揮ふ其の混雑の人数もめちやくちやである。此の映画を作るのに五千の人を傭はれたと云ふことである。主役のジョン・ギルバートが

刑場を脱する時の半葉殊に高く響きし鐘楼
立の高く飛び落ちる危険の仕業をする二週間
の練習をやつて或日か負傷をしたと云われてゐ
る。又此の映画を見ますと今私は二百萬円を費したとい
ふが流石と外国のやり口は放膽である。

三月十九日記

○井原西鶴の作で浄瑠璃迄が唯一の存してゐる
と云はれてゐる、それハ刻本で一層と[illegible]書題簽
で、根津大様が珍蔵し、今でも未亡人が大切にし

PRODUCTION FACTS

Author: Rafael Sabatini
Director: King Vidor

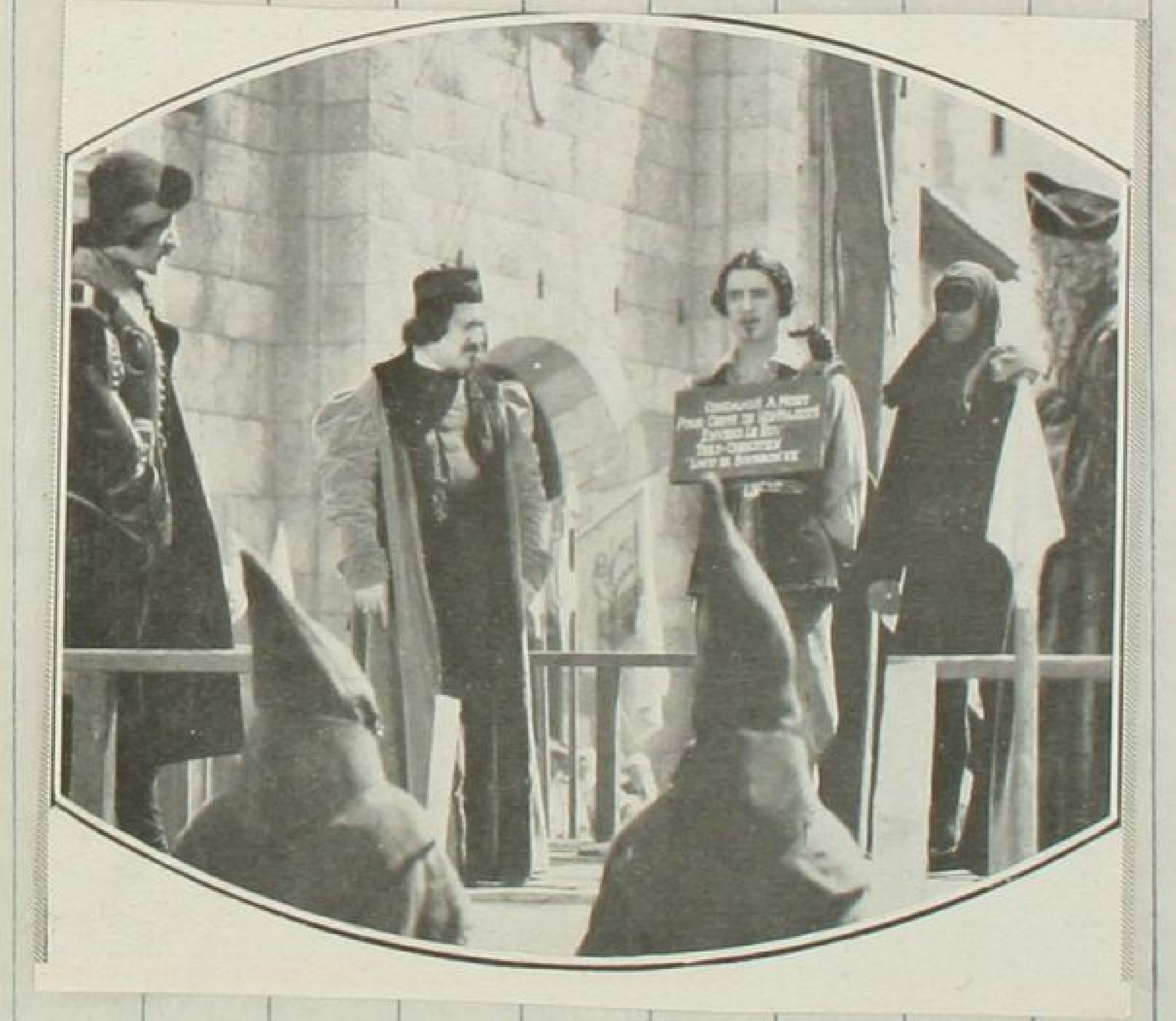
Adaptation
Dorothy Farnum and King Vidor
Cameraman: William Daniels

Wardrobe
André-ani and Lucia Coulter

Settings
Cedric Gibbons, James Basevi and Richard Day

THE CAST

Bardelys	John Gilbert
Roxalanne de Lavedan	Eleanor Boardman
Chatellerault	Roy D'Arcy
Vicomte de Lavedan	Lionel Belmore
Vicomtesse de Lavedan	Emily Fitzroy
Saint Eustache	George K. Arthur
King Louis Thirteenth	Arthur Lubin
Lesperon	Theodore Von Eltz
Rodenard	Karl Dane
Cardinal Richelieu	Edward Connelly
Castelreux	Fred Malatesta
Lafosse	John T. Murray
Innkeeper	Joseph Marba
Sergeant of Dragoons	Daniel G. Tomlinson
Anatol	Emile Chautard
Cozelatt	Max Barwyn



してゐると云ふ、對に両端が此者として明記せるは
から、此向きで判断するより外に無いが、其の道
の通人はマンザラのこともなかつたと云ふてゐると、今
複雑なる問題なるが、之を剋しても見るが、今問題と
なつてゐる。

○早稲田大学の山岳部の学生が雪中高山征服
に出かけて、雪崩に出遇つて四人が命を殞した。
其の死体が今も掘り出されないが、四人の中の李
等の友人の手もある悲惨なことである。其の
追悼会に登嶽の友人槇有恒が追悼演説
をやつて、登山者の於ろそかにしてはならない注意すべきことと
を教へてゐる中に次ぎのやうなことがある。積雪

期に山に登ることは多いが、近年の傾向で雪中スキ
ーが行はれ出し、之に就いて雪中の山登りは
容易であるやうに思つて輕挙して出るのは甚だ
危険である。夏の登山で充分山の傾斜や土質
の火山質か否か又岩石か否かなどをよく心得て
充分地理なども研究してからでないと雪中
の登山は無謀である。と云ふ、仲間の隊伍も能くせ
全体の中に一人二人強壮な人のみを要するよりも
平均した体力と経験とを要することが必要だ
と云つてスキーの隊伍を離れても秩序を要し訓
練を要する。雪中の疲労は夏の疲労と違ひ
あからさまに極度の疲労となつてはすると固形体の

つまり嶮下し難くなる、いくら登攀者であつても
嗜好者でなければ喉を通らないから嗜好者も
相当苦を要する、兎角登山者は重壮さを要
する、単に物質的に重壮さを意味するばかり
でなく、又心の重壮さを必要とすると戒めてみる
そして終に右のやうになつてみる
政治経済芸術宗教などく（ユートピヤの如き）山に
登る人は山の姿に、朝夕に色づく峯の姿に、
又月の光に照らされる山の姿の前に立つては、
此の世の夢想を眺め仰ぐのであります、
其前では捨てる夢想の為者の様な、ふらく
と出て、死と生との世界を高く上へ上へと引

きつけられて行く、けれど口でこやと云ふ詞がある
る。種の執念であります。然も此の事に元
てる此の山岳のもてる神秘なる力と、素人に忽
ひこかる者の心との結びは、偶合である
命をうしふやうな危険があるからと云つて
簡単に中止出来ない事にそのひは類ひの如き、

の毎前流動映画を観て感ずることは、劇に帝国す
るやうな潮流がある事であるが、実一方は流れ出
劇が断えず絶えて、芸術は写実が能であり
写実のみ何物が、なければならぬ、其の何物
が写実芸術の大切なものであると云ふで、日本の

能の点に倣つて背景なども簡略化する傾向があるかと思ふと、映画の劇はますます写実化してくる。映画の劇が時代もの、舞台に演ぜられる劇を其儘写真に撮りたるを無声の劇として、スクリーンまでもの説明をもして見せるものがあるが、追々と進んで事実活動写真の劇は舞台の劇でなくなる。種々実際のものを編成して映画にて見せるのである。例へば河川の暴溢堤防の決裂、海洋に於ける船舶や破船や大規模の野戦 汽車の衝突自動車の墜落のごときもの、大衆の運動 動きは悉く行はれて居るが、勿論気分写しも行はるべきものであらう、皆写

実境の写しでもある。~~軽業曲馬~~、打球戯馬の游戯、騎馬の冒険、猛獣の操縦なども俳優其自身が行ふものとすれば俳優は所謂る劇の芸術を逸したる業をやるものと謂はざるを得ぬ、サーカスの如き危険の業は或へ其道のものを使ひ来つてやるのかと思つたこともあつたが事実はさうでなく俳優が自身競を考つて居る。山野を跋渉する馬術や海洋を泳ぐ水術皆俳優の技能と待つとすれば俳優たるも亦難しと云はねばならぬ、米国あたりの運動游戯の盛んなる国では、婦人までも冒険の游戯に慣れてゐるから、あまり面倒もなく一般の人が至て

さればとて求めて真似られぬ事もある。去らしめると
冒険が出来ても、夫れは劇の芸術以外のものと
なつてゐる。故にまた一方写実を主とする以上はこれ
も（頼）写実ならしむるを得ぬ。そして此写実本位の
活動が盛んに行はれ（附加）ますます発展するか測
り難いけれども進みつゝあるを見れば、久保写実
が勝を制~~しまふかも知れない~~。するとあひきたら
うが、写真は写真を措て花を見るやうなもので
精神が~~中々~~闘ひてゐるやうでもあるが
の長所の部分くの場面をつなぎ合はせて編成が（編輯上に於いてはいことの）
出来る所にある。長い絵巻を見るやうなものである
が動きのある所は絵の及び難い所である。他の前にし

静止を写すの展までは出来ないならばそこで更に一
進展を見るであらう。近年活動の映画は甚だ資
金を費すことが非常に激増して来た。随つて見料
は決して廉ではないが外国では弁士を用ひないから館
さへ大きなのは幾千人も容れ得る。随つて収入も亦無非
常なのである。そしてヒルムが海外に高価を以て売
れるから絵入り換へ無いと見へる

三月十九日記

演劇では英国の風尚が反映するまでであるから
品位も高い国柄であるが、米国は新興の国
でデモクラテイツクでもあるから、シヤツ一枚の青年
が終に七八億の大金持を想ひたなど、立志伝を
抵抗するカウボーイの快活の行動や、悪漢を抜

…する探偵談や、露骨な男女の情話や、[illegible]
會釋もないやうな場面もあるくらいが、これが國風
で、趣味の低級であるのハ、大衆の為めなのであるから
でもあらう、併し壮快の気象がある、日本ハ何
もかも亜米利加風と異る気味があるので
米國流の活動が売れてゐる、去かし趣味
の低落ハよろしくない、活活動の種類ハ精々
選を要する、ひとり風化ばかりの問題で
ハ無い。

○協會の組合事業の計畫を始めて一年に垂んとする
既に四五事を初め、募金も約十七萬円となつたし、漸や
く募金ハ行詰つた觀もあるが十八萬円になつた[illegible]

であらう、工事費として十四万円内部の桐其他の設
備費として二萬円を要するとすると、本年仕様も
要する金ハ十六萬円となるから十月までの[illegible]を
十萬乃至十二萬円で、五萬円の金融を[illegible]
ハならぬ、協會も提供の宅と土地があるから之
れを担保とすることハやむを得ぬ、昨日幹部會
をひらき前途のことも相談して成るべく早く
早大に引つぎ、早大で未納者主の事務を此の
金融もなし引受けさすが、組合員事業擔當者に於
て便利でもあり、又経済的でもあることを、出席の各
校當事者に談じたが、各々の校で早く引つげば未
納が見え益難いといふ事情もあるので今少しく

報告（昭和三年三月十五日現在）

（一）寄附申込口數並ニ金額

一、申込口數　一千三百口也

一、申込金額　金十六万〇四百八十一円也

（備考＝外ニ最近確定スベキ豫想額約八千圓アリ。都合十六萬八千餘圓トナル。結局申込金額ハ十七萬圓ニ到達スルノ見込）

（二）收支

一、總收入金　七一、〇五九円　内印税一七、〇六二円

一、總支出金　八、九九六円

内譯

七、一六七円也　募集ニ関スル總入費

一、八二九円也　建築ニ関スル費目

（備考＝募集費ハ申込額ニ對シ五分弱）

（三）集金ニ関スル件

A、現在手許在高　六二、〇六二円

B、最近集金額　二五、〇〇〇円

C、五月迄ニ集金見込額　一四、五七八円

D、十月迄ニ集金見込額　二三、九八一円

（備考＝C、Dニ就テハ見込額ノ六割ヲ確實ニ集金シ得ルモノトシテ二ヶ口ニテ二四、〇〇〇円也。此額ニA、Bヲ合算スレバ金十一万六千二百円也）

現今ニ至ル總收入金及B、C、Dノ合計金　一四〇、〇〇〇円也

來年度以降ノ集金額　二〇、〇〇〇円也

計金　一六〇、〇〇〇円也

時機を見ることとなつた、二年ハ八月中落成の約束
ゐれども一二ヶ月ハ延ひるとの懸念も有るさうで
が落成と共に逍遙の古稀の祝賀会を催さねば
ばならぬから、どうあつても十月に落成させねば都
合が悪い、逍遙の沙翁譯もあと一つ外に総
説やうのものを二冊書けば全部完成であ
るから、全集の出版もおそらく従来通せねばならぬ
本年の秋に頼まると発表せさるを得ぬ、沙
翁全集譯の版権を博物館に納めて演劇博物
館に寄附せしめてはとの内議もあつた。従来出版
部で逍遙に払つた印税ハ多い時ハ一萬円少ない
時五千円とあるから、此の寄附ハ若干の維持費
を生むこととなろう、逍遙からしてハ大ちや意義ある
寄附である、逍遙ハ相續人が無いから、なほ今
此の内議を容れるであらう。そして此れを背景
する、祝賀会の場合がよいなど話り合ひ、彼の設
計、全ての宏のつけ方とか、修正を要する所
などがあるので模住設計図を示されたのを
自分に宜しく修正を可としそれの長時間を
費やした

三月廿一日

○頃日隨筆の稿を日課のやうに毎日書き溜めて居る。西遊樂をおよそ書き直し、烟雲示跡が終り食通に書いたことを遺し、富士淺間白雲金洞妙義山の登攀記を共に書き添へてハと思ひつき、記憶を辿つて、一晩から可なり勉強して終に書き畢つた、其の枚數は書簡用箋で三拾六七枚、あの趣致が無いでもない、皆な四十年前の事に屬し其の折に書いた游記は筆中に収めてあつたが生憎今は搜出も面倒である、兎に角是と却つて筆が鈍るから、全然旧稿によらず書いた。昔を思ひして跋渉した山々それぞれの記憶は至つて失せないので書き添へて置くと、當時のこ

雪の利用法に就て　(四)

我等に惠まれた 雪の紫外線

魚沼共濟病院長　上村伯太郎

○斯くの如く雪上に紫外線の多い事は確實でありますが之は抑も何に因るかそれは彼の高山に紫外線が多く存在するのと同じ

理由で　即ち雪が降ると地表空中の塵埃、水蒸氣が極めて少いために吸收せらるゝ事少くよく地表に到達するためであるが更に反射によつて愈々其密度を増すのであります

○紫外線の何者たるかを解せざる昔より實際に於て之を利用して居る例は澤山ある即ち彼の越後縮を雪に晒して漂白せるなどはその最なるものであるが更に農家で藁細工を晒し製紙業者が楮の皮や紙を晒し菓子屋が寒晒しを作るなども之に外ならぬが之等は今日となつては稍

實際的　價値が乏しい現に今頃雪上に曝晒してある縮を見る事は殆どない而も紫外線の研究と應用とは愈々進歩して獨り醫學的工業的のみならず家畜や農作物に對する影響も明かとなつて愈々利用厚生の途が擴大せられんとする矢先、殆ど無盡藏と云ふべき雪上紫外線の天惠を有する吾北越人士は大に考ふる所あらねばならぬ

○最後に特に強調したい事は吾北越の結核患者が因襲的に雪に對して持ち誤れる恐怖心を打破したい事である、近來結核治療の傾向として寒冷は一種の刺戟となつて却て

良結果　を招來するとがあるたゞ濕度の高いのはよくないまた寒暖の差の大なるはよろしくないといふことになつて居る試みに此の地方に於ける最近三年間一二三の三ケ月と六七八の三ケ月との各氣溫最高最低の差の平均を比較すると前者は後者より三度強少いまた濕度に至つては前者は後者の三分の一にも足らぬ即ち肺結核治療の上からは越後人は寧ろ

夏期に　於てこそ他に轉地するも冬期殊に一二三の三ケ月間の如きは最も好適の時期といふ可きである

○やがて上越線でも全通した曉には越後に雪降るの新聞記事を待ちかねて關東遠くは關西九州よりスキーマンと共に紫外線を慕ふ結核患者の群が越後へ

殺到す　る樣になるかも知れん遮莫春陽暗雪に映じて輝々たる昨今健やかなるものはスキーを山野に駈つて此の天惠の紫外線に浴せ更に患めるものは病室の窓を開いて照魔の光を迎へよ(完)

とがあつくと沈んでくるので妻の容貌を
脱し得れ、唯々白雲金洞二山の二字の跡に親しむ
わしく書き送らぬ心配をする、浮元性の潑ね
文集を読んだら更に思ひ浮かべることもあらう
が、今は荒蕪に並んだ無いから、図書館から借り
受けてから補足を増訂す　三月廿三日記

〇かつては国際間の通信機関として最も大切され、従
ゝ多くの設備を投じた海底電信は無線電信の発
明があつてから今般事の影響を受けつゝある。現在
世界に於ける海底線の長さは三十五万哩である。
中で政府に属するものは八万五千哩で私線が
二十六万五千哩であつて、英国の私線が十四万四千

哩、米国は八万哩、仏国が二万哩で、大体大西
洋に多く太平洋のはまだ少ないと云ふのがケーブル
の大勢である。日本でも大いに海底電線の経営
発展をと論じたが世界の趨勢に注意してみると、従来の仕
合は無線電信の工夫が進むに従ひ来れので、海底に
ケーブルを敷設するも設備を助け得れのは幸と云ふべき
である。海底電線は多く今日の経営であつて、英
人でも手広く此線を整理してゐるようでジレオン
ペニダルである。無線電信が[illegible]し改善されて来
たら、海底の電線が全く無用となる時も来るで
あらう。今日の投資は実に大なるもので●であらう。
昨年米国のワシントンの世界の各代表を会して

無線電信電話の会議を開いた際に出席委員が四百名、問題が二千件であつたといふを考へても無線の氣運の盛んであることが知られる。最近十五年間の無線電界の発達は未曽有の、従来各國二定められた関係通信の申合せを根抵から改めねばならぬこととなつて、二千件の問題が十種の委員に附された二ヶ月に涉つて会議で決定されたといふ。無線がいかはつ發達しれかを聯ら予定を記して見るに亜米利加では放送が最も盛んで、放送局が六百以上もあり欧羅巴全体で三百局に達んでゐる。日本の放送は現在一キロワットであるのを近く十キロワットに改めんとしてゐるが亜米利加の現在は五十キロワットである。

米國では放送無料であるが其代りに放送に依る機械を販売し、廣告を料金をとつて扱つてゐる。無線電話も四圓内は極めて安く、関係者が現に行つてゐる、ロンドンと紐育間の無線電話の料金が五ポンド、但し今日まで使であるのは電報であらかじめ交話の時間を定めるのが手数の必要があることだ。写真の電送も実現して居る。ロンドンと紐育間の地の電送料が百円である。新聞紙全部を写真に備へる電送を電送し、愛するに方で之を擴大すれば、読者のコピーが直流に出来る世界の流行の中枢である佛蘭西の婦人の風俗を電送すれば之が直ちに世界の流行となる。此の

電送写真をテレウエジョン（vision）と云ふてゐる。今も放送局も応用され、對話の人の写真も寫して談話を交へることが実際に行はれ出してゐる。船中でも恋人の写真の電送を得て眷々の情を慰したと云ふ事実の話である

近来又電流に勢を通じて自ある機械の仕掛で、スウヰツチを操縦し其の深浅を回らせたり、換火をつけさせたりすることが行はれ出した。あの機械を器に入れ、其の器に人形の手足のことごとくのものを結びつけし、恰かも人間の手が働くかの如くに工夫してある。それをテレボッツリスと称してゐる。テレメンと云ふ。いつかも或る将来に来るであらう

一二月廿

靈廟式典場案內

一場所　東京府下南葛飾郡瑞江村一ノ江

交通

□電車　本所錦糸堀發「城東線」一ノ江下車靈廟入口すぐ（當日は入口に案内所設置あり）

□自働車　立川通りより「小松川」「松江」を經て約三十分間

控所

□式場附近數ヶ所に設置あり

□式場參列席は、御到着の節「席券」を呈す

十二行

特伸

國柱會大靈廟は、日本國に初めての創建で、信仰上倫理上社會的國家的のすべてに亘て、人生問題の最大解決として、純正日蓮主義の教理實證と、政府當局の諒解採許と、合意圓熟の上に成立し、三ヶ年の工程を經て、今回落成を告げましたので、來る四月十五日を期して、その落成式を擧行いたします。

抑も此大靈廟は、一大寶塔の下に、萬人同穴に、その香骨を合納して、彼此の隔異を認めず、妙法本體の一身に歸納して、常住法身の妙體を現じ、不斷常行の法味を嘗めて、常樂我淨の安住を占める神聖境たる同信同人貴賤平等師弟一結の靈塔であります。

遺骨又は靈名は、崇嚴なる式典裡に入塔合安され、一たび入塔したものは、永久に見たり觸たりすることが出來ません。

落成式典中に第一回の入塔式を行ひます、あとは毎月一回の例式と、一年兩度の大式との外、一切開塔しません、塔下大寶窖は落成大式典の數時間前までに、何人にも希望者には、入窖縦覽を許しますが、開式の號烽と共に、寶窖は永久に閉され、式典によりて神聖化された後は、いかなる人も入ることも視ることも出來ません、人生問題の解決に、活きた參考として、この絕世の不可思議境を見て置きたいと思ふ方々は、式典參列御申出の方に限り、四月十五日開式前の時刻、午前十時より正午迄の間に、塔下窖内を御見學下されてよろしい、右時間内は、係りのもの現場に出張して、具さに御案内いたします。

當日午前御來車の方は、式場外に食事賣店を設けて置きますから、御隨意にお用ゐ下さい、御縦覽并に式典御參列に就ては、何等御心配なく願ひます。

此式典と共に、私は四十九年の宗教事業を收束し、并に關係各

事業を隱退して、專ら自身宿願の研究に沒入いたしますから、永年の御知遇を敬謝する意味にて、式後は再び見られない此異常の珍らしき構造趣向のもの故、特に御案内申します。

昭和三年三月

智學 田中巴之助 敬白

市嶋春城 樣

又は或る精神團體、又は事業關係の申合せて造る合安廟、例へば

何々業組合の合廟

とか

何寺檀徒中の合廟

なども一考すべきである

東京市何區民合廟

とか

何々町民合廟

などもよからう、かくして合廟が進歩すれば、これと同時に、靈簿の登錄は、嚴密正確にされるから、死後の文献は、明白且つ周到に世に殘されるわけである。（靈廟淸規には、同一簿冊三部を造り、所を異にして永存するの例）

「燒いて粉にして酒でのむ」のを不滅の靈境に光藏して、その人を永久に史的に存留した上、國家は無意義な不生產地が無くなツて、それが立派に整理されて威嚴ある姿となツて世を照らすのだ。こんな氣の利いた捌き方はあるまい、厄介な問題が、こんなに花が咲くのだ。

信仰安心の立體的表示
併せて祭祀及墓地問題の解決

田中智學

■信仰問題の表現

予が四十九年の宗教事業を結論すべく、宿業の事實現たる

一塔合安の大靈廟

は、三年の工事を以て、予の發心の舊縁地たる、東京府下南葛飾郡一ノ江に建造されて、この四月十五日櫻花爛漫の中に、落慶式をあげることになッた。

この建造の趣意は、生存中の人は、個々別々の因縁果報で生を營むことだが、一たび死んだ上は、生れる前の如く、法界の大元に歸して、その本體は蕩然として、妙法の一體に融歸すべきものであッて、死んでの後まで、生存競爭の醜態を殘すべきでない、況や同一の法に歸依し、同一の信に住したものは、生きての異體同心を、延長遡源して、一心一體の安住相に落着くべきものだといふ大安心を立體化して、此

一塔合安の大靈廟

に同穴同鎮して、同志不斷の法味供養を以て、縦無盡、横無邊、常住法樂の祭祀を以て大靈をまつるべき筈であるといふ見地から、この廟窖が營まれて、一たび入塔すれば、その遺骨遺體は、モー誰れ彼れのけじめなく、渾然一和して、只これ妙法五字の大稱呼の下に歸着して終ら、そうして同志者かはるぐ四人以上十數人の常詰奉仕を以て、斷えず讀經唱題を捧げ、日々かはるぐ廟域を清掃し、香花を絕たず、法音間斷なく、法界圓渾清淨光明の樂土とするの趣向で、倫理の信仰化、信仰の社會化、一擧にして社會を淨化し、國家を嚴肅化する純淨の用意を實現し、かねて墓地問題、祭祀問題より、社會風敎の肅正、延いては國家の土地問題を整理し得る端緒を啓いたつもりである。

墓地の事

に就ては、人口問題、食糧問題ほどに、世の人が騷がないが、これはむしろ重大の考慮を要すべきだとおもふ。一體墓所を、人間の捨場といふ様に考へてゞも居るのか、少しも考慮をしない、つまり銘々の處置にまかせて置くから爾うなる、人間は一代で終るが、國家は常に續いて居る、民はその國家の經營者の一人だから、その跡を崇敬するのは、實は國家の責任である、國家が社會的に處置して行かねばならぬ、それを各個人にまかせて、知らぬ顔をして居るといふ法はない、墓地問題は單に土地面積の問題ではない。人の死んだあとは、どうなッても構はないといふ見地は、やがて人間を粗末にする考であるから、倫理上からも由々しき問題である、その子孫の呂えて居るうちは、どうにか墓も輝くが、一旦衰亡するや、墓石は傾き、草は茫々たるはまだしも、果ては無縁の名の下にその殘碣は敷石や土臺石と化し、あはれ訪ふ人もなくて、空しく啾々の悲哀を草露にとゞめて了う、甚しきに至ッてはその上に他人の墓石が樹ッたり、もッとヒドいのになると、道路と變じたり、家が建ッたりする、人一人の永久の城が、こんなゾンザイな扱ひを受けて居るといふことは、死去ッたものゝ上はトニカク、その子たり孫たり一族たるものゝ上から見て、その祖先を斯る扱ひをしていゝと思へやうか、祖先を粗末にすることは即ち子孫を無視することである、こんな非倫理的な考へて、活きた人間を進退することは出來ない、爾うい頭で國家を經營して居ては、ロクな結果は生ない、宜べなるかな、人情も道念も廢れて、只食物と享樂の外に人生がないとまで墮落した世の中よ、政治敎育宗敎の各方面から打そろッて世をぶちこわして居るのだ。

これを覺醒させるのが、墓地問題の解決だ、これに含まれた大切な考慮に、三つの問題がある、即ち

精神の問題としての倫理觀念
風俗の問題としての祭祀勵行
土地の問題としての面積整理

である。

人間を粗末にすることは、即ち人生を低下し、國家を愚弄することである、人の死は生と共に神聖である、これに尊重の用意を缺くことは、即ち一生を空疎にすることである、子が父母に對した場合、夫婦兄弟一家一族より、同胞國民、乃至は人類同胞といふ廣い部面までも、互に相尊重し崇敬することは、やがて自己を敬重し、人生を充足するとである、此點から見て、墓地を人間の棄場と解してはならぬ、むかし學者の墓の多くある場所を呼んで「儒者捨場」と稱したなどは、彼の「馬捨場」と聯想して、いかに身の毛のよだつ様な稱呼ではないか、この稱呼の中に、人生も倫理も全で空ッぽであることが物語られて居る、儒者でなくても、今の墓地は、まア「人捨場」的である、個人や寺院の問題ではない、こんなことを國家が放任して置くといふことが、國家を輕侮して居るのである。

種痘や試驗をやかましくいふことを知ッても、人間の一番大切な事を平氣で放任して置くとは、いかにも顚倒極まッた話しだ　敬神崇祖といふことを、地方官會議の時に、紋切形に言渡して、實際問題に無關心で居る爲政家たちには、少し話しが高遠すぎるかも知れないが、國を治めるには、根本から養ッて行かねばダメだ。

厚葬を否することは、甚だしい心得違ひだ、ヱセ道德者輩が、薄葬を道德の様に言ひふらしたので、それを善いことにして、萬事質素とばかり、親の葬儀を簡單にすることを、一ばし美風とするのは、社會風敎の墮落である、自らこそ謙抑して厚葬を辭するがいゝ、子たるものは成し得る限り厚く葬るのが當り前である「遺言に依り質素に」とは、體のいゝ口實で、全くは大恩ある親を投込式に片付けて、私腹を肥やさうといふ猾い心からである、親の葬儀には、身代の半以上を費してもいゝ只それを無益なことに使はないで、有効有意義の事に使うことが大切だ、この頃は葬儀と言はずに「告別式」といふ、凡そ「告別」とは、別れて行くものが、暇乞をするの謂である、死んだものが誰れに別れを告るのだらう馬鹿くしいにも程がある、殘ッたものから告別するなら、どうせ一度の事だ、成るたけ叮嚀にしてやるのが人情である、一生に一度の而も是れきりの別れに、質素の名に隱れて、貪嗇の罪惡を、道德の假面でごまかさうといふのは、以ての外の背德である。

……渾然一和して只それ妙法五字の大稱呼の下に歸着して終ふ、そうして同志者がはるゞ四人以上十數人の常詣奉仕を以て、斷えず讀經唱題を捧げ、日々かはるく廟域を清掃し、香花を絶たず、法音間斷なく、法界圓渾清淨光明の樂土とするの趣向て、倫理の信仰化、信仰の社會化、一擧にして社會を淨化し、國家を嚴肅化する純淨の用意を實現し、かねて墓地問題、祭祀問題より、社會風教の肅正、延いては國家の土地問題を整理し得る端緒を啓いたつもりである。

墓地の事

墓地問題は、人口問題、食糧問題ほどに、世の人が騷がないが、これはむしろ重大の考慮を要すべきだとおもふ。一體墓所を、人間の捨場といふ樣に考へてゞも居るのか、少しも考慮をしない、つまり銘々の處置にまかせて置くから斯うなる、人間は一代で終るが、國家は常に續いて居る、民はその國家の經營者の一人だから、その跡を崇敬するのは、實は國家の責任である、國家が社會的に處置して行かねばならぬ、それを各個人にまかせて、知らぬ顏をして居るといふ法はない、墓地問題は單に土地面積の問題ではない。

人の死んだあとは、どうなツても構はないといふ見地は、やがて人間を粗末にする考であるから、倫理上からも由々しき問題である、その子孫の昌えて居るうちは、どうにか墓も輝くが、一旦衰亡するや、墓石は傾き、草は茫々たるはまだしも、果ては無緣の名の下にその殘碣は敷石や土臺石と化し、あはれ訪ふ人もなくて、空しく啾々の悲哀を草露にとゞめて了う、甚しきに至ツてはその上に他人の墓石が樹ツたり、もツとヒドいのになると、道路と變じたり、家が建ツたりする、人一人の永久の城が、こんなゾンザイな扱ひを受けて居るといふことは、死去ツたものゝ上はトニカク、その子たり孫たり一族たるものゝ上から見て、その祖先を斯る扱ひをしていゝと思へやうか、祖先を粗末にすることは即ち子孫を無視することである、こんな非倫理的な考へて、活きた人間を進退することは出來ない、爾らいふ頭て國家を經營して居ては、ロクな結果は生ない、宜べなるかな、人情も道念も廢れて、只食物と享樂の外に人生がないとまで墮落した世の中よ、政治教育宗教の各方面から打そろツて世をぶちこわして居るのだ。

これを覺醒させるのが、墓地問題の解決だ、これに含まれた大切な考慮に、三つの問題がある、即ち

精神の問題としての倫理觀念
風俗の問題としての祭祀勵行
土地の問題としての面積整理

である。

人間を粗末にすることは、即ち人生を低下し、國家を愚弄することである、人の死は生と共に神聖である、これに尊重の用意を缺くことは、即ち一生を空疎にすることである、子が父母に對した場合、夫婦兄弟一家一族より、同胞國民、乃至は人類同胞といふ廣い部面までも、互に相尊重し崇敬することは、やがて自己を敬重し、人生を充足するとである、此點から見て、墓地を人間の棄場と解してはならぬ、むかし學者の墓の多くある場所を呼んで「儒者捨場」と稱したなどは、彼の「馬捨場」と聯想して、いかに身の毛のよだつ樣な稱呼ではないか、この稱呼の中に、人生も倫理も全で空ッぽであることが物語られて居る、儒者でなくても、今の墓地は、まア「人捨場」的である、個人や寺院の問題ではない、こんなことを國家が放任して置くといふことが、國家を輕侮して居るのである。

種痘や試驗をやかましくいふことを知ッても、人間の一番大切な事を平氣で放任して置くとは、いかにも顚倒極まツた話しだ　敬神崇祖といふことを、地方官會議の時に、紋切形に言渡して、實際問題に無關心で居る爲政家たちには、少し話しが高遠すぎるかも知れないが、國を治めるには、根本から養ッて行かねばダメだ。

厚葬を否することは、甚だしい心得違ひだ、エセ道德者輩が、薄葬を道德の樣に言ひふらしたので、それを善いことにして、萬事質素とばかり、親の葬儀を簡單にすることを、一ばし美風とするのは、社會風敎の墮落である、自らこそ謙抑して厚葬を辭するがいゝ、子たるものは成し得る限り厚く葬るのが當り前である「遺言に依り質素に」とは、體のいゝ口實て、全くは大恩ある親を投込式に片付けて、私腹を肥やさうといふ猾い心からである、親の葬儀には、身代の半以上を費してもいゝ只それを無益なことに使はないで、有効有意義の事に使うことが大切だ、この頃は葬儀と言はずに「告別式」といふ、凡そ「告別」とは、別れて行くものが、暇乞をするの謂である、死んだものが誰れに別れを告るのだらう馬鹿くしいにも程がある、殘ツたものから告別するなら、どうせ一度の事だ、成るたけ叮嚀にしてやるのが人情である、一生に一度の而も是れきりの別れに、質素の名に隱れて、貪嗇の罪惡を、道德の假面でごまかさうといふのは、以ての外の背德である。

こんな劣想惡風を打破するにもこの問題は大に意義を藏して居る、費用をかけたから厚葬といふのではない、要は精神だ、人の死を重く貴く考へさせるといふことが眼目だ、これを尊重するは、即ち人生を尊重する所以である、こゝに於てか、墓地問題の精神的解決として、予の

一塔合安式大靈廟

の必要は來る、これは源と法華經の大安心、本化敎式の事實表現として創意されたもので、信仰を母とした案ではあるが、さしづめ世に望めては、これが倫理的解決の一靈犀となるのである。

それから斷えない祭、これが倫理の永久持續的實行で、單に子孫のみでなく、同安者のすべてか、縱に永久なると同時に、橫に無盡の廣さに亘ツて、その祭祀が持續し普及する、生きて居るうちの、個々別々は、死んでの後に一體となる、渾然一融した大靈界が、目のあたり事實として吾人の前に輝いて居る、これに依ツて吾人の生は淨められ高められて、その靈明淸淨の姿が、即吾人の姿と反映して、こゝに人生は向上する、墓所とも言はれない、活きた敎育でもあり、活きた藝術でもある、かういふ高潔な風俗できたえた人生でなければ、美しい社會は生れない、倫理問題風俗問題、倶に靈化して良い世の中を造る、それが予の創案した

一塔合安の大靈廟

である、精神的に將た儀禮的に、一擧解決し得る深妙の組織は、根元法華經の哲理が生んだ、本化精妙の信仰的發現であツて、予の五十年來の體驗の事實化である。

■土地問題

最後に土地面積から一考して見る人間一人の死ごとに、新たに方一坪の墓を造るとしたら、國家は每日多くの不生產地を生ずるに至る、まさか墓地へ麥も作れまいではないか、イヤそんなに案じたものではない、その上くと埋めて行くからといふなら、是れ所謂「人棄場」である、「生に厚ふし、死に喪する」意義を失ツて、世を荒化するに終る、手もなく今の墓地の亂豚荒頽の姿がそれてはないか、これがイヤだから、それの合理的解決を求めやうといふのだ、それて創案した一塔合安の大靈廟である、ところが、この案の實現によッて、自然と面積問題も解決される一塔が假りに百萬人を收容すると見ても、百萬が一つてすむことになる今こゝにいふ大靈廟は、國柱會信行員のであツて、同一信仰者の合安廟であるが、假りに之を單なる團體行爲に移しただけでも、たしかに社會の一大進步である、例へば

一町村の一塔合安廟

それから斷えない祭、これが倫理の永久持續的實行て、單に子孫のみでなく、同安者のすべてか、縱に永久なると同時に、横に無盡の廣さに亘ツて、その祭祀が持續し普及する、生きて居るうちの、個々別々は、死んでの後に一體となる、渾然一融した大靈界が、目のあたり事實として吾人の前に輝いて居る、これに依ツて吾人の生は淨められ高められて、その靈明淸淨の姿が、即吾人の姿と反映して、こゝに人生は向上する、墓所とも言はれない、活きた敎育でもあり、活きた藝術でもある、かういふ高潔な風俗できたえた人生でなければ、美しい社會は生れない、倫理問題風俗問題、倶に靈化して良い世の中を造る、それが予の創案した

一塔合安の大靈廟

である、精神的に將た儀禮的に、一擧解決し得る深妙の組織は、根元法華經の哲理が生んだ、本化精妙の信仰的發現であツて、予の五十年來の體驗の事實化である。

■土地問題

最後に土地面積から一考して見る人間一人の死ごとに、新たに方一坪の墓を造るとしたら、國家は毎日多くの不生產地を生ずるに至る、まさか墓地へ麥も作れまいではないか、イヤそんなに案じたものではない、その上く上くと埋めて行くからといふなら、是れ所謂「人棄場」である、「生に厚ふし、死に喪する」意義を失ツて、世を荒化するに終る、手もなく今の墓地の亂豚荒頽の姿がそれではないか、これがイヤだから、それの合理的解決を求めやうといふのだ、それて創案した一塔合安の大靈廟である、ところが、この案の實現によッて、自然と面積問題も解決される一塔が假りに百萬人を收容すると見ても、百萬が一つですむことになる今こゝにいふ大靈廟は、國柱會信行員のであツて、同一信仰者の合安廟であるが、假りに之を單なる團體行爲に移しただけでも、たしかに社會の一大進步である、例へば

一町村の一塔合安廟

又は或る精神團體、又は事業關係の申合せて造る合安廟、例へば

何々業組合の合廟

とか

何寺檀徒中の合廟

なども一考すべきてある

東京市何區民合廟

とか

何々町民合廟

などもよからう、かくして合廟が進步すれば、これと同時に、靈簿の登錄は、嚴密正確にされるから、死後の文献は、明白且つ周到に世に殘されるわけである、（靈廟淸規には、同一簿冊三部を造り、所を異にして永存するの例）

「燒いて粉にして酒でのむ」のを不滅の靈境に光藏して、その人を永久に史的に存留した上、國家は無意義な不生產地が無くなツて、それが立派に整理されて威嚴ある姿となツて世を照らすのだ、こんな氣の利いた捌き方はあるまい、厄介な問題が、こんなに花が咲くのだ。

御東田様

小生宿葉ニ家発

的貞献として世文

候

御案内謝

小生宿案之宗教
的貢献として世之
賢まして道富殺
信仰と思想界へ
一場合安之霊廟
落成披露式
典挙行ニ付閣下
霊前御照臨ニ
供し度依て候
該奉式ニ御参列
の栄を得ハ幸甚
不過是別紙御
得御案内申上候

昭和三年二月
田中智学

十二行

以下全て
白　紙

十二行

十二行